

令和6年度第1回宮古構想区域地域医療構想調整会議要旨

日 時：令和6年10月22日（火）18時30分～20時00分

場 所：宮古地区合同庁舎 3階大会議室（参集、オンライン開催）

出席者：委員18名中、会場出席11名、オンライン出席4名

代理出席2名、欠席1名

事務局11名（保健所7名、医療政策室2名※オンライン出席、
医療局1名、医師支援推進室1名）

1 開会（吉田 宮古保健所次長）

2 挨拶（杉江 宮古保健所長）

3 報告事項

(1) 岩手県保健医療計画（R6－R11）について

○

（川村 岩手県立宮古病院長）

保健医療計画概要（P25）のところで、脳卒中7圏域となっているが、久慈圏域の久慈病院では、脳外科が撤退して脳外科手術ができなくなっているのですけれども、来年度からは、脳神経内科も撤退すると聞いている。久慈圏域では、八戸圏に紹介するということになっているようだが、この医療圏は再編する必要があるのではないか。二戸と併せるとか、そういうことは考えていないか。

（医療政策室 石川主任主査）

久慈圏域の状況についてはこちらも伺っているところであり、八戸圏域と連携しているということもそのとおりである。医療圏の検討に関しては、まず、制度として県境をまたいだ医療圏の設定というのが、現状中々制度的にハードルがある。そうだとすると、方法としては保健医療計画に県境を越えた連携について書き込むという方法はあると思う。現状の保健医療計画では、必要に応じて隣県と調整していくという書き方になっている。連携の必要性和計画の位置づけというところは、担当としては必要であると思いつつ、やはり青森県の了解を得る必要があるというところで、青森県と県境連携について意見交換したいという調整をしているところである。

（川村 岩手県立宮古病院長）

宮古圏域でも可能性があることなので、大学の医師がいらないといえればそれまでだが、いないからといって切ることが良いことなのかどうか非常に大きな問題だと思っている。

（杉江 宮古保健所長）

以前、久慈保健所長の時は、コロナの時だったが、コロナ感染症と脳疾患とは違うかもしれないが、洋野町とか八戸市内に近いのだが、八戸市内の病院は非常に敷居が高くて、診てもらうことはほとんどなかった。ぜひ検討していただきたい。

- (2) 地域医療構想における推進区域・モデル推進区域の設定について
意見等特になし。

○ 議題

- (1) 岩手県立病院の経営計画（2025-2030 素案）について

（川村 岩手県立宮古病院長）

各病院の方向性のところで、県立宮古病院は 10 月から大規模改修の実施を予定していたところであるが、入札に入らずに中止となっている。今後は、改修ではなく建て替えになるという認識でいる。建て替えまでは、随時、工事に対応していくことになると思われる。

（阿部 岩手県立山田病院長）

山田病院は、今後は地域に根差した地域医療を提供していくこととしているが、山田町でも面積が広いので、遠隔医療にも力を入れていきたいと考えている。

（佐藤 医療局経営管理課企画予算担当課長）

宮古病院の大規模改修については、入札を数回実施したが、応札者がいなかったところである。今回の工事は、施設の長寿命化を目的とした計画修繕としての位置付けであり、緊急を要する工事があまりないということで、病院運営に直ちに支障があるというものではないところである。今後の整備については、どのような方法が適切なのかというところを本庁内部で検討しており、周辺の状況等も踏まえて検討していくこととしている。

（杉江 宮古保健所長）

宮古圏域の宮古病院に結核病床が 5 床備えているが、数年前の保健福祉部の「結核病床の在り方検討会」の会議において、沿岸部の結核病床は全て廃止の方向になったかと思われるが、その辺の整合性とはどのようにになっているのか。

（佐藤 医療局経営管理課予算担当課長）

結核病床の在り方検討については、保健福祉部で検討されて、一旦取りまとめされたと聞いているところである。その検討を踏まえて、それを今後どう反映するのかを現在保健福祉部の方で検討されていると聞いているので、その結果を踏まえて、各医療機関、県立病院で対応を考えていくことになると思っている。

- (2) 重点医療機関の指定について

（林 宮古医師会長）

重点医療機関の指定については、これまでも宮古病院が指定されているところであり、この制度の趣旨からもこれまでどおり指定された方が良いと思われる。

※ 宮古圏域における紹介受診重点医療機関については、岩手県立宮古病院を指定することについて、「異議なし」として了承される。

○ その他

次回開催は、12 月又は 1 月の開催予定。